

Gift for the Next 100 Years

Vol.4

11月4日から7日の日程で、第9回国際キャンプ会議ならびに第4回アジアオセアニアキャンプ会議が香港中華YMCA烏溪沙青年新村で行われました。この会議はそれぞれ2~3年ごとに場所を変えながら行われているものですが、今回のキャンプ会議は、私たちにとって少し特別なものとなりました。

私たちが進めているグリーンキャンプ・プロジェクトのきっかけは、海外からの安否をたずねるメールでした。そこから始まった世界中のキャンプ関係者とのコミュニケーションから、グリーンキャンプというアイデアが提供され、支援金集めの呼びかけが始まり、前回紹介したEl Tesoro de la Vidaへの視察といった流れが生まれていきました。この過程で情報提供や寄付など、さまざまな形で協力をしてくれた多くの人たちと直接に会うことのできる場が、この会議だったのです。

📦 パラレルセッションでの発表

私たちのグリーンキャンプの取り組みを直接に伝える場のひとつが、パラレルセッションと名付けられた分科会でした。その中で、およそ30分の発表を行いました。

日本はこれまでに多くの地震を経験し、大きな被害を受けたこともたびたびありました。しかし、今回の東日本大震災は、日本の地震観測史上最大の地震であったというだけでなく、これまでの地震災害とは少し異なる様相を呈しています。それは「目に見えない喪失 (Invisible Loss)」の存在です。原子力発電の事故も、建物の倒壊などとは異なる喪失を生んでいるという意味では、この目に見えない喪失のひとつかもしれません。もうひとつは、津波の被害が大変大きく、行方不明の状態の方がまだまだ数多くおられるということです。1995年の阪神・淡路大震災では6,400人を超える方が亡くなられましたが、そのほとんどが狂死や焼死であり、安否が分からないままの行方不明者は3名だけでした。しかし、東日本大震災においては、地震から半年が過ぎてもなお4,000人以上の方の安否が確認されていません。

大切な人が亡くなったと分かることはとてもつらいですが、安否の分からないままにあることもまたつらいことです。「安否が分からないという状態のままで、どのように大切な人の不在を悲しむことができるのか?」「そのような状況に対してキャンプにできることはないか?」この問いかけに対して、「グリーンキャンプが役に立つかもしれない」との提案が海外から届いたのです。

そして、それはEl Tesoro de la Vidaへの視察へつながり、1週間のグリーンキャンプを日本の4名が経験しました。(視察の内容

は、CAMPING143号で紹介)その視察から導き出したグリーンキャンプとの定義は、「すべての参加者がどのような感情でも表してよいということが保証された、楽しみにあふれたキャンプ」というものです。

このキャンプを日本で行うためには、いくつもの課題があります。ひとつは、キャンプが大好きで、キャンプをよく理解している心の問題の専門家をどのように確保するか、あるいは、ボランティアをどう確保し、どう継続的にかかわってもらうかという「人」の課題。参加費だけではとうていまかなえない費用をどう確保するかという「金」の課題。キャンプ以外の場面でもキャンパーを支えることのできる、グリーンケアセンターのような場をどう作り出すかという「環境」の課題。

これらは日本に限らず、どの国のどのキャンプでも同じように抱えている課題かもしれません。しかし、グリーンキャンプが「どのような感情でも表してよいことが保証されたキャンプ」であるならば、感情をどう表現してもらうのかというのは、日本でグリーンキャンプを行う上で考えなければならない課題です。一般的に日本人は感情を表に出さないと言われます。もしそれがその通りだとすれば、アメリカと同じ手法では難しいとも考えられるのです。

そして、「HUGGING (抱擁)」に代わるものは何かということですが、El Tesoro de la Vidaでは、うれしいとき、悲しいとき、気持ちが落ち込んでいるとき、怒りでいっぱいとき、いろんな場面でハグをする姿が見られました。信頼する人にぎゅーっと抱きしめられるのは、本当に心が落ち着くことですが、日本人にとっては、同時に、ちょっと照れくさいものです。その照れくささを感じずにすむ、何か安心を与えられる表現を見つけること、それも日本でグリーンキャンプを行う上での課題のひとつです。(発表の骨子)

El Tesoro de la Vidaのキャンプの様子を伝える写真を交えた発表は、意外にも笑いにあふれたものになってしまいました。しかしそれは、グリーンキャンプの基本が「楽しいキャンプ」であることを考えれば、当然だったのかもしれません。



El Tesoro de la Vida
の中でハグは重要な役割を
持っていました

国際キャンプ会議 in 香港

ところがその後、会場の雰囲気は一変します。

この会議への日本からの参加者は35名でしたが、その中に被災地域から参加した学生4名がいました。彼らはラボ教育センターの実施するラボキャンプのリーダーもしているのですが、その中の一人、大木場千穂さんが震災から今までの気持ちを話してくれました。

自分は家がなくなっただけなので、家のことが落ち着いたらすぐでもラボの活動に参加できたけれど、勇気が持てずに参加できなかった。夏休みに勇気をふりしぼって参加したが、本当に参加してよかったと思ったので、多くの被災した子どもたちにもキャンプに参加してほしいと思っている。

ぼつり、ぼつりと語られる言葉に、瞳を潤ませている人が何人もいました。彼女はそれからハグの嵐を受けるのですが、それは、深いコミュニケーションを生み出すことのできるキャンプは、グリーンフエアに役立つに違いないということを確認させるに十分な光景でした。



大木場さん(左から2番目)のメッセージは、キャンプのグリーンワークにおける意義を強く感じさせるものでした。

📦 たくさんの支援と日本からの貢献

また、会議内で行われた国際キャンプ連盟の総会では、これまでに集められたグリーンキャンプ・プロジェクトに対する寄付金の贈呈式も行われました。

地震の数日後から、国際キャンプ連盟のホームページなどを通じて、寄付の呼びかけが始められました。寄付は個人だけでなく、各国のキャンプ協会、いくつものキャンプ場からも寄せられました。中には、例年、キャンプ場の整備のためにやっている募金活動



国際キャンプ連盟会長のバレーリー・コスティンさんより、寄付金の目録が渡されました。

で集められたお金に、さらにマッチング・ギフトとして同額を加えて寄付してくれたというキャンプ場もありました。

第一弾として受け取った額は、34,279米ドルにも及びます。これ以外にも、ロシアから参加している方々からの500米ドルをはじめとする現金、「カウンセラートレーニングのために日本でワークショップをするよ」「キャンプをぜひ手伝わせてくれ」といった申し出など、たくさんの支援と応援の言葉を受け取りました。

地震発生からの半年間、世界中にはまだまだいくらでもキャンプについて学ぶべきことがあり、学んだことを実践し、その実践を世界中のキャンプのコミュニティに伝えることで、キャンプはもっともっと社会に役立つ存在になれると痛感する場面が何度もありました。世界中の人々が集まった国際キャンプ会議は、まさにそのような場面のひとつとなりました。

日本でグリーンキャンプを行うまでには、まだまだ多くの準備が必要ですし、成果らしきものが見えてくるのはさらにその先になることでしょう。しかし、その様子を記録し伝えることが、これまでに受けた支援に対する日本の私たちにできるお礼ですし、世界のキャンプ・コミュニティに対する貢献です。

改めて責任の重さを痛感し、しかし、明るい気持ちで香港を後にしました。

(金山竜也)

Gift for the Next 100 Years 2011 NCAJ 45th anniv.		International Camping Fellowship Project in support of the National Camping Association of Japan for on-going relief and grief recovery camps for Victims of the Tohoku Region Pacific Coast Earthquake	
<i>In grateful appreciation to our generous contributors:</i>			
\$2500-6000		\$200-899	
Campers & Staff of Camp Tanager Assoc. of Independent Camps Camp Wananah Canadian Camping Association	Canada US Canada Canada	All Veterans' Systems Camp Overton Lindale-Laura Hubert Camp Veterys Rest Camp Woodbury Glenar Camp & Villa Camp Phoenix Yieldo Camp	Russia Canada US Russia US US Canada US
\$1000-2499		\$100-199	
Australian Camps Association Camp Friendly Pines Be Camping Mexico NCA KeyStone Section Cheley Camps North Star Camps Gold Arrow Camp Western Assoc. of Ind. Camps	Australia US Mexico US US US US	Camp Wabaco & Robin Hood Pine Forest Pau Melville Camp Camp Woodbury Dr. Beth Woodbridge John Thompson Dreadnought Richard and Linda M. Allen Richard Faith Glenar Camp Mountain Camp Ivan Gower	Canada Australia US US US Canada US US US
\$500-999		\$10-99	
Mt Guaramba Dolphin Camp Shiloh Yosemite Ellen Bernard Camp Gwynn Powell	Venezuela US US Canada US	High Meadows Camp Margaret Giddens Tara Kamada Roney Pinedale Walter Kinnison Camp Mary Beth Cheney Parks Pinedale	US US Russia US US Australia US

大会までに集められた寄付金のリスト。多くの個人、キャンプ、団体が支援を寄せてきています。



このほかにも多数の分科会やクラフトワークショップ、キャンプ場見学ツアーなど、多彩なプログラムが行われました。